

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集

関ブロ・長野大会分科会発表

十日町市中央公民館長 発表者 水落 久夫

4.5

- 2 トピックス 「関ブロ長野大会開催される」
- 3 視点 キャンプが育む「生きる力」 新潟市・白井 雅子
- 3 ひろば 「残りの人生をどう生きる」 湯沢町・高橋 政弘
- 6 実践記録シリーズ 「小千谷市勤労青少年ホームの取り組みについて」 小千谷市・指導員 加藤 圭
- 7 サークル交流 「音楽溢れる東区へ」(新潟市) / 「霊峰八海 照覧あれかし」(南魚沼市)
- 7 素顔拝見 猪俣 一真さん(柏崎市) / 田中 恵子さん(阿賀野市)
- 8 お元気ですか 関川村・石山 キンさん
- 8 ネットワーク



鳥のお家を作ってます！（加茂市・自然ふれあい教室～巣箱づくり～）

表紙解説

野鳥の観察を通して自然の大切さを学びます。
完成した巣箱は2月に取り付け、5月に探鳥会を行います。

関ブロ長野大会開催される

関東甲信越静公民館研究大会が9月27日(木)〜28日(金)に松本市で開催されました。

この大会は、新潟大会の前年あたり、大会視察を兼ねて新潟県から69名の多くの参加者がありました。開催県を除くブロック10都県では隣県の山梨県に次ぐ2番目に多い参加者でした。

視察の観点から、会場、日程、セレモニー、全体会、運営、情報交換会、宿泊、分科会等をレポートします。

1 会場

全体会場はキッセイ文化ホール(松本文化会館)でした。新潟市の「りゅうとぴあ」と規模やホールの雰囲気似ていると思えました。客席は1,200人の参加者が余裕で収容でき、座席も大きめでゆつたりとしていました。館内には他に中ホール、国際会議室、会議室等があります。また、エントランスホールやホワイエが広く、受付や物品販売に十分なスペースがありました。新潟県大会の会場である南魚沼市民会館は、十分な広さと運営に対応できる設備があり、長野会場と同様な設備が出来ると思います。

2 日程

開会が12時30分、閉会が17時10分という日程は新潟大会の予定とほぼ同じです。また、県大会を受付時間と並行して同会場で行う点

も同じです。ただ、新潟大会の会場は分科会の打合せを日程の最後に行うことになっているので終了が20分延びることになります。

3 セレモニー

開会式、閉会式のセレモニーは特筆することはありませんが、公民館の歌斉唱の時、市内のコーラスサークルのみなさんがステージサイドに立ち歌うアイデアがありました。新しい試みで参考になりました。

4 全体会

全体会「信州発!リレーメッセージ」は驚きの構成でした。2市2村の実践発表なのですが、発表の構成がすべて劇風で映像での紹介を取り入れたたり寸劇調にして発表する方式でした。衣装や舞台道具(リヤカーなど)を使ってわかりやすく発表したので客席を退屈させない内容になっていました。全体進行をナレーター(プロの方2人)が行い発表内容をまとめて次につなげていく手法で、過去の大会では見られなかった斬新な演出でした。

また、引き続き行われた基調講演はこれらの発表を基に「活動の期待と可能性」をわかりやすいお話で解説しました。従来の内容イメージの講演と全く異なる内容で、発表と2つ合わせた2時間50分が短く感じられる充実感がありました。

新潟大会でも、寸劇による課題

提示の後にまとめの講演を予定しています。この長野大会の成果を参考にして実行委員会が構成案を練り直しながら準備を進めていきたいと思えます。

5 運営

全体会、特に舞台演出は、松本市の公民館職員が行いました。職員でチームを組んで意見交換をしながらまとめたというのを担当者から聞きました。やはり、若者を含めて多数の意見・アイデアを取り入れていく重要性を感じました。

6 情報交換会

当日の夜に情報交換会があり新潟県の参加者も多数参加しました。会場は同じキッセイ文化ホール

400人のレセプション



の中ホールで約400人の大宴会でした。受付で席抽選を行い、参加都県混成で10人1テーブルでしたが、38テーブルもありましたので宴会は圧巻でした。

会場中央には料理コーナーがあり和洋中のオードブルが並べられました。毎度のことですが、このような方式の時は人気のある料理(今回は生寿司)は早めに無くなってしまう。しかし、宴半ばに「信州そば」が出て行列が出来ました。量は十分あってお代わりも出来て皆さん満足の様子でした。

残念だったのは、アトラクションとして出演した「茅野市木遣り保存会」と「松本アルプホルン保存会」の唄や演奏が盛り上がりやや欠けたことです。「流の方々でしたので残念でしたが、酔っぱらい(私)は飲む方に気がいつてステージを見えていませんでした。

7 宿泊

全体会場から徒歩でも15分の至近距離に宿泊する温泉ホテルがありました。距離は近いのですが、宴会後に歩くのは危ないからと送迎バスのサービスがありました。

翌日は分科会場までホテルのマイクログラスが出て大変円滑に移動が出来ました。新潟大会も同じ方式をとります。

8 分科会

15分科会が2会場に分かれて開

催されました。マイクログラスで参加した市町村は、帰宅を考えてどちらかの会場に参加者が集中したようです。新潟県の担当分科会は市内中心部の松本市中央公民館で開催されました。発表等の詳細は4、5ページの特集に掲載されています。

次期開催地 湯浅会長挨拶



総括して、長野大会は今までの大会の常識をくつがえすようなすばらしい大会でした。来年の新潟大会はこの後だけにプレッシャーのある大会運営を強いられそうです。(田原)

視点

キャンプが育む「生きる力」

一般社団法人ガールスカウト
新潟県連盟連盟長 白井 雅子



今年も県内12ヶ団は夏期キャンプを無事終了しました。キャンプは日頃の訓練を実践し自からの成長を確認する機会でもあります。定例集会では野外炊飯・テント設営・歌やロープ等年代に応じたプログラムとおし自立・連携・コミュニケーションの涵養そして技術の向上に努めています。年少スカウト達はキャンプ事前の「荷物点検」で個々の必要性を意識し、宿泊訓練を積み重ねていきます。年長は自己の判断で準備し、不足が生じても臨機応変・創意工夫でやり遂げる迄に成長します。

「スカウティングはゲームである」の如く楽しいキャンプでも、仲間同士のトラブルや辛いことも経験するでしょう。グループ活動は豊かな自然環境の中で寝食を共にし本

音のコミュニケーションで協力し合うことの大切さを体得していきます。

それは不自由な生活環境を通し、快適な日常生活、自分を取り巻く安全・安心な環境に感謝しながら我慢する心や協調性の重要性を意識し助け合う気持ちが生まれるのです。

震災では、「野外炊飯が役に立った」、暗闇の中「キャンプに行ったと思えば怖くなくなった」など家族を励ますスカウト達の「生きる力」が感じられる言動がありました。

考えてみれば公民館活動が地域コミュニティのリーダーとして総合文化・芸術、生涯学習、社会教育などをベースとして地域住民を支援し育む活動は私達ガールスカウトが目指す事と同じなのではないかと思う次第です。

H O T N E W S 掲 示 板

第34回全国公民館研究集会 滋賀大会開催される

平成24年10月11日(木)、12日(金)に滋賀県大津市民会館を会場に全国大会が開催され参加してきました。全体会場は琵琶湖が目の前に広がる風光明媚な所でした。大会テーマが、「今こそ活力ある公民館活動を」でしたが1日目の主プログラムであるパネルディスカッションのテーマが「災害と公民館」で、「最近このテーマが多いなあ」という印象を受けました。2日目の分科会は、「今日的課題と公民館」をテーマにした第1分科会に参加しました。実践発表やテーマについて会場の参加者とのやりとりを期待しましたが、司会：助言者の解説が多くやや消化不良の分科会でした。会場で、来年度開催地富良野市の事務局長さんとお会いしました。来年の開催に大きな意欲を持っていると感じました。(田原)



滋賀県知事・嘉田由紀子氏の歓迎あいさつ

ひろば

「残りの人生をどう生きる」

湯沢町社会教育委員兼公民館運営審議会委員 高橋 政弘

男から見ると、女性はいつも華やかでお喋りで、歳を重ねるにつれその勢いは更に増し、人生を謳歌しているように思われる。

の歴史も日本の歴史も、節目々々の大事な場所では女性がそれを動かしてきたことは間違いのないことである。

ある学説によると、人類が地球上に誕生して以来、男性は狩猟をするために獲物の行動パターンを推測する必要があるので、論理的に考える力が備わり、女性は男性の帰りを待ちそれを食べ子供を産み育てる、というどちらかという感情に支配される思考能力が備わった。から、男性は立ち話が苦手な女性は誰とでも立ち話ができたりするらしいのだけれど、そんな学術的なことはともかく、世の中がうまく回っている原動力は、女性の力によるものも大きいわけだし、世界

さてさて、つまらない男の一人である私は、残された人生をバイタリティ溢れる女性のように生きていけるだろうか。女性のような生き方と言うよりも、自分に与えられたたった一回の人生を悔いのないように暮らしていきたいとは思っているのだが…。



分科会発表



司会 呉井副参事

2 アンケート調査資料

＜関東甲信越静公民館事業評価実施状況調査結果＞

(1) 公民館事業評価実施率

全体22.5% (都県別は省略)

国社研の調査では、行政評価を含めた数値は60%が実施している。関プロでは22.5%と低迷している。

(2) 評価計画の策定率

全体28.6%

評価を実施している公民館の中で評価計画を策定している公民館は28.6%である。つまり、すべての公民館の7%に満たない数値である。

評価と評価計画は、事業の実施、見直し、改善に欠かせないものである。

(3) 都県の指導・助言

あり27%

(4) 都県主催研修会

実施36%

(5) 都県主催研修会

実施73%

(3)(4)(5)で、都県公連主催の研修会が73%と高い数値であるが、(1)(2)の数値から評価の実施につながっていないことがわかる。

(6) ハンドブック等の配布

なし100%

都県からの公民館事業評価についての意義や内容、方法等に関する記述をしたハンドブックやガイドラインなどはどの都県も配布されていない。このことも周知、実施されない要因ではないか。

(7) 評価は機能している

機能している9%

機能していると回答した都県は1つである。評価を実施している都県でも形骸化していると思われる。また、事業評価を始めたばかりで判断できない都県もあるようだ。

評価は、本腰を入れて取りかかると多大な労力と時間が必要になる。しかし、実施後はそれなり

の成果が必ず出る。今後は、効率的で実効性のある評価をつくりあげていくことが課題といえる。

3 討議

1、2を受けて討議をおこないました。

＜討議の柱＞

現在、公民館の評価は自治体、教育委員会、公民館独自等で行われている。それぞれの視点を検討し、公民館の原点や取り巻く現状をふまえつつ、必要とされる評価の方向性等を研究協議する。

＜十日町市の提案＞

公民館の原点に立ち返って、地域における公民館の役割を再認識し、公民館を活性化していこう。地域づくりの拠点施設としての役割を担う。また、芸術文化及び芸能の振興のため、各種事業や市民活動の支援を行う。「本来の目的を明確にし、その達成のためにどのような評価を行えばよいか」

討議の柱と十日町市の提案を司会者の呉井副参事が行い、続いて5人グループで50分間の「グループワーク」を行いました。

グループ討議は＜公民館事業評価の現状を述べ、独自評価（公民館の）か行政評価との関係等も述べる。また、そのことについての課題等を述べ意見交換する。未実施のメンバーはその理由を述べ共有する＞

討議終了後に、各グループの発表があり、多数の意見がありました。(意見の詳細は大会記録集参照)

最後に、助言者の堀課長が全体のまとめをしました。



助言 堀課長

- ①事業は総括して評価が大切。そのためにアンケートをとる方法がある。
- ②事業は継続する必要がある。参加人数だけで打ち切らない。教育だから。次年度の事業に改善を加えるには評価が必要。ネックは担当者が異動してしまうこと。
- ③行政評価は職員やる気につながる。事業担当者の評価をくみ取って、課長が正当な評価が得られるよう戦う。

特集

関ブロ・長野大会



十日町市中央公民館長
発表者 水落 久夫

はじめに

第53回関東甲信越静岡公民館研究大会が9月27日(木)～28日(金)に松本市で開催され、新潟県は第15分科会「これからの公民館事業評価」を担当して十日町市の水落久夫中央公民館長が発表しました。

参加者は7都県34名でした。司会者は、新潟県教育庁中越教育事務所社会教育課・呉井 清副参事、助言者は同じく堀 隆行課長が務めました。当日の発表、討議の様様、まとめなどを田原 理(県公連事務局長)がレポートします。

1 発表要旨「これからの公民館事業評価を考える」

(1) 十日町市について

- ①これまでの実績と歴史の紹介
- ②社会教育の中心となる公民館として位置づけ
- ③青年学級の発展と継続
- ④社会教育専門職を養成し計画的配置
- ⑤効果的な評価づくりを模索中

(2) 公民館事業評価の手順

①事業評価の定義

「公民館の個々の事業、またはその総体としての事業全体の実態とその結果を分析・測定し、個々の事業の目標・計画または公民館事業全体の目標・計画に照らして、達成度(または目標・計画と実態との差)について価値判断すること。」
八洲学園大学・浅井経子教授

②全国で公民館事業評価について統一した定義が必要

(3) 評価の実施状況

①公民館の自己点検及び評価の実施状況

「行った」59.8%

*国社研の平成22年度調査から

②関ブロ11都県の事業評価実施率

11都県すべて50%未満

(4) 公民館の事業の点検・評価を実施しない理由

- ①「業務が多忙」52.2%
- ②「方法がわからない」42.8%
- ③「作業に手間がかかる」33.7%

(5) なぜ公民館事業評価が必要か

- ①事業計画作成と実施事業評価は一体である。
- ②P D C A (計画・実施・評価・改善)マ

- ネジメントサイクルの確立が必要。
- ③職員の成長が必要
 - ④公民館存続の意義や必要性のために必要
- (6) 適正な事業評価でこうなる

- ①事業や業務の改善に生かせる
- ②公民館の存在意義を地域に発信できる
- ③地域住民と共同で課題解決に当たれる
- ④公民館の目指す方向が明確になる

<職員は>

- ①共通理解が得られる
- ②成果を上げる工夫がなされる
- ③業務に緊張感がでる

<利用者は>

- ①課題解決のための協力者になる
- ②公民館への要望がしやすくなる

<地域住民は>

- ①利用者が増える
- ②実情を知り、公民館の予算に協力を得られる
- ③公民館の必要性が広がる

(7) 今後どうすればよいか

- ①事業計画、評価計画の作成
- ②事業改善に生かせる評価計画作成
- ③職員の共通理解
- ④外部の視点を重視 結果を地域に説明
- ⑤評価を事業改善に生かす

(8) 今後の課題

- ①マニュアルガイドライン等の作成が必要
- ②職員のレベルアップ
- ③推進役が必要

(9) 今後の評価を考える

公民館を取り巻く環境は大変厳しい。行財政が厳しいことによる職員数削減や職員の異動サイクルが早く職員の公民館についての学習が深まらないなど。また、どこの公民館事業も同じような企画で住民の支持がない。そんな中で行われる評価は「単独事業評価」と「行政評価」だけになっている。行財政改革に心を奪われるのではなく、職員自身が学習を深め「事業の目的」「事業の目標」「事業の必然性」を明確にする点検・評価が必要である。また、公民館運営審議会委員、社会教育委員をはじめ広く市民の声を聞き点検・評価に反映させることが十日町市の大きな課題である。

*

水落館長が約30分にわたって発表した後、簡単な質疑応答があり休憩を挟んでアンケート調査資料の説明と討議が行われました。

実践記録

176

シリーズ

小千谷市勤労青少年ホームの取り組みについて

小千谷市勤労青少年ホーム 指導員 加藤 圭

●はじめに

小千谷市勤労青少年ホームは、仕事を終えた青年たちが、教養講座やクラブ活動などを通し交流を図る拠点として、また悩みごとを気軽に相談できる場所として日々活用されています。

青年たちが組織する利用者協議会は、おちやまつりへの参加やホーム祭の準備や運営に自ら積極的に係わることで、活動がより充実し、さらにメンバーも増え盛り上がりを見せています。

ところが数年前までは、利用者数が減少傾向にあり、何とか歯止めをかけ利用者を増加させるため、様々な取り組みを行ってきました。

その結果、数年前より利用者数が回復に転じ、昨年度は、最低時100人だった利用登録者数を300人まで増加させることができました。これは利用者の青年たちから、私たちの取り組みが一定の理解と賛同を得た結果だと思っています。

そこで今回は、私たちが行っている教養講座の取り組みについてご紹介したいと思います。

●講座を長期から短期にリニューアル

以前は長期の講座が中心で、どの講座も参加者が頭打ちの状態でした。

また、雇用情勢の悪化により、数か月先の予定が立てにくくなり、その結果長期講座が敬遠され参加者の減少につながっていました。

このため、長期講座を細分化して短期講座とすることで、参加しやすい状況を作ったところ好結果が現れましたので、その後段階的に講座の短期化を進めてまいりました。

また、副次的な効果として、短期講座としたことで新規の講座を多数開催できるようになり、これが新規の利用者の掘り起しにつながり、勤少ホーム全体の利用者数の増加を後押しすることとなりました。



初心者テニススクール

●PRを強化して

以前の広報の手段は、『ホームだより』という冊子と、市の広報紙やホームページへの掲載などに限

られていました。

そこで講座の短期化にあわせて、講座ごとにカラーポスターを職員が手作りして、市内の公共施設や大型スーパーなどに掲示することとしました。

また、市内の各事業所や利用者に毎回チラシを発送したり、FMラジオに情報提供するなど積極的なPR活動を行っています。

●講座の企画・募集・運営などについて

講座数は、昨年度30講座、今年度34講座を開催する予定です。このため講座の企画・募集・運営・事後処理が常に重なり、業務は複雑化します。しかし、講座の増加は募集を通じてPRするチャンスが増えることにもなりますので、これを最大限に利用できるように取り組んでいます。

また、講座の企画には、毎週のように顔を合わせている青年たちの会話や、彼らの目にする雑誌やウェブサイトなどを参考に、要求課題にも対応しながら、社会の要請である必要課題の要素も加味するように努めています。

このように、私にとって勤少ホームの業務の中で講座の企画が本当にやりがいを感じている業務の一つです。



クリスマスリース教室

●講座を開催している上での問題点

講座が増え参加者も増えてちょっと困ったこともあります。一つは無断キャンセルをされる方が増えてきたことで、なかには連絡がつかないケースもあります。もう一つは毎回人気の講座がすぐに定員となってしまふことで、受講をお断りする際に、少し心苦しさを感じることもあります。

●おわりに

小千谷市勤労青少年ホームが青年たちの生涯学習の拠点として、また心の拠り所として今後とも彼らに利用され活用され続けていく施設を目指して、私たちは日々の努力を重ね、ひたむきに事業を推進していきたいと思っています。

音楽溢れる東区へ

新潟東シティ管弦楽団

八区制となって誕生した政令都市の中で最もコンパクトな東区。十四万人近い区民待望の東区プラザホールが、三百名収容で平成十一年秋に完成した。これが最大の契機となって、管弦楽団を同年秋に結成した。簡単に来るとは、勿論思っていない。指揮者・楽団員・指導講師の募集、会場確保、楽譜作成、運営費の捻出等々、難問ばかり。全てを承知の上で取り組んだ筈が、当初はトラブル続き。退団騒動も有り、団員数の減少など、不安要素が増幅した。



半年を経過する頃よりバイオリンを中心に団員増が進み窮地は脱した。此の8月、9月には出前コンサートも実施するなど徐々に地域への貢献度も増している。目標に近付きたい。

新潟市・新潟東シティ管弦楽団
団長 安原 達夫 記



霊峰八海 照覧あれかし

笹舟混声合唱団

四十年前、霊峰八海山を望む小さな町で、歌が大好きという数名のお母さんが集まり歌を歌い始めました。「笹舟」の誕生です。

素晴らしい方々との出会いがあり、ずっと歌い続けるこ

とができました。

十代から八十代という、年齢層の厚いメンバー達です。

・みんながよく知っている歌を、より深く歌い込む。

・歌う人と聴く人の命が、互いに響き合う合唱をする。

この二つの目標を、年に一回開催する定期演奏会で確かめてきました。これからも、「本気で歌を愛し、次の世代にしっかりとつなぐ」という気持ちで、団員一同、楽しく頑張っていきます。

霊峰八海 照覧あれかし！



南魚沼市笹舟混声合唱団
指揮者 関 雅美 記

今年の春から安田公民館の看板レディーとなった田中恵子さんを紹介します。

田中さんは、去年まで市立保育園の保育士をされていたこともあり、子ども達の扱いに関してはプロフェッショナルです。阿賀野市生涯学習課社会教育係の小学生対象のメイン事業「やまびこキャンプ」では、メニューごとの会場移動や集合の誘導等もスムーズに行い、スポーツ振興係のメイン事業「スポレクフェスティ



阿賀野市安田公民館
主幹 田中 恵子さん

バル」ではキッズコーナーを担当。保育園で培われた経験がきらりと光っています。

安田公民館においてもその実力をいかに発揮して利用者からの信頼度も抜群です。

ぐるめ探求とウォーキングをこよなく愛する田中さん。今後のより一層の活躍に期待しています。

(阿賀野市京ヶ瀬公民館 野崎アユミ 記)

柏崎公民館のニューフェイス、平成24年4月に新採用職員として配属になった猪俣一真さんを紹介しします。趣味でバスケットボールをしている猪俣さんは、見たからにスポーツマンで、体育会系のノリでガツガツ突き進むのかと思いきや、冷静沈着でとても大人しい温厚な性格です。そんな猪俣さんは、180センチを超える長身と、ハッキリとした目鼻立ち、見た目も性格も羨ましい限りの美男子です。



柏崎公民館
主事 猪俣 一真さん

猪俣さんは、毎年5月に開催している「柏崎潮風マラソン」を主に担当しています。その業務量の多さから、ベテラン職員でも弱音を吐いてしまうほどの一大イベントですが、猪俣さんは「何もしないで時間だけが過ぎて大会が終わりました」と一言。「猪俣一真は何か持っています！！」

(柏崎公民館 主査 赤澤 雄二 記)

素顔 拝見

Network

下越地区公民館関係役員等研修会 兼下越地区社会教育研究集会開催される

平成24年10月3日(休)に阿賀野市ふれあい会館で開催されました。研修テーマは「社会の変化に対応する生涯学習・社会教育の創造」～活力あるまちづくりに社会教育の果たす役割～で、午前と午後にわたり研修を行いました。



熱弁をふるう若林講師

午前は講演会が行われました。
講師：若林和枝(おぢや元気プロジェクト理事長)
テーマ「人と人 心と心のつながりを大切に」
～大規模災害に学ぶまちづくり～
午後は5分科会に分かれてテーマ別に研修を行いました。参加者数は113名でした。

お元気ですか

石山 キン (関川村)



退職して、早くも4年半になりました。現在は、学校関係や子育て支援関係、地域活動の仕事など頼まれ、忙しい毎日を送っています。それに趣味として、洋服や古布を使ったバッグ作り、油絵も新たに始め、忙しさは増していますが、充実感と喜びがあり、有意義な時間を過ごしています。また、大好きな登山が続けられるように、体力づくりと家族の健康を考え、畑仕事も夜明けと共に活動を始め、頑張っている毎日ですが、このごろ、私が「元気で活動できる期間」は残りどのくらいあるのだろうか、「とき」を考えるようになりました。これからは、日々の生活の中の様々な「とき」を大切に、喜び、悲しみ、感動の「とき」を感じながら、一日が無事に終わり、一年が終わり、残りの人生も、健康で、元気に歩いて行けるように願っています。

information

◎「県民公開講座」のお知らせ

- 1 講演 「ジェネリック医薬品でなあに？」
講師 ①厚生労働省専門官 近藤 秀昭氏
②新潟薬科大教授 上野 和行氏
- 2 日時 11月25日(木)13:00～14:30
- 3 会場 パストラル長岡 長岡市今朝白2-7-25
- 4 申込み・問い合わせ等
新潟県薬剤師会025-281-7730

<午後12:45～15:00>

- ①活動紹介・情報交換12:45～13:15
- ②分科会13:15～15:00
- 4 申込み・問い合わせ等
新潟県生涯学習センター 025-280-5617

◎「社会全体で子どもをはぐくむ運動」フォーラム

- 1 日時 11月30日(金)10:00～15:00
- 2 会場 聖籠町町民会館 聖籠町1280
- 3 内容
<午前10:00～11:45>
講演「子どもをはぐくむ地域の力」
講師 新潟大学大学院准教授 雲尾 周氏

◎「幼児教育の現場から」生涯学習協会上越地区研修会

- 1 日時 12月13日(木)9:30～11:30
- 2 会場 高志保育園 上越市木田新田1-1-7
- 3 内容
①視察
②講話 「幼児教育の現場から」
講師 高志保育園長 坪井秀和氏
- 4 申込み・問い合わせ
新潟県生涯学習協会025-266-1120

純国産クリーンエネルギー

ダムは、CO₂を排出しないクリーンな電力を供給しています。また、都市住民の生活や農業・産業活動などに安定した水の供給を行い、集中豪雨等の災害時には住民の生命・財産を守る機能を果たすなど、国民の安心・安全にも役立っています。

新潟県ダム・発電関係市町村協議会
会長(阿賀町長) 神田 敏郎

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内
TEL 025 (285) 0041 FAX 025 (285) 1609

事

事務局長のつぶやき
つい最近まで冷房だった

のがもう暖房になりました。ここ数年は夏が長く秋を感じている間もなく冬になっています。また、共通して暖冬の予報にも

かわらず大雪でした。今年も

いやな予感がします。

もう年賀状の季節です。パソ

コン印刷が多くなりましたが、手書きの文字が全くない形だけの賀状は翌年に出さないようにして数年。ようやく整理がいつ

てきました。(田原)